

「小さな命の meaning を考える 第2集」

大川伝承の会に1万冊

石巻西RCが活動応援

冊子寄贈



石巻西RCメンバーから贈られた目録を手にする佐藤共同代表（左）

石巻西ロータリークラブ

(菊地敏宏会長、会員32人)

は8日、石巻市の東日本大震災遺構大川小で語り部活動を続ける「大川伝承の会」に、冊子「小さな命の意味を考える 第2集宮城県石巻市立大川小学校から未来へ」を1万冊(約60万円相当)寄贈した。語り部ガイドの参加者や遺構見学者らに無料配布される。

■ 教訓生かして

冊子は震災時の大川小の避難行動や考察などをまとめたもので、児童遺族らでつくる「小さな命の意味を考える会」が制作した。教育現場で起きた悲劇に理解

語り部ガイド参加者らに配布

を深め教訓を生かしてほしいと、寄付を募って増刷を重ね無料配布している。

市内で贈呈式があり、石巻西RCのメンバーが大川伝承の会共同代表の佐藤敏郎さん(59)に目録を手渡した。小さな命の意味を考える会の代表も担う佐藤さんは「大川小に思いを寄せてもらい、うれしく思う。震災遺構になり、より深い伝承の形を考えている時だったので力になった」と感謝した。

石巻西RCの遠藤祐也さん(83)は「伝承活動を応援したかった。県外のRCの仲間たちにも冊子を送り、大川小の教訓を防災に生かしてもらおう」と話した。